

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第52回 ビジネス文書実務検定試験 (26. 11. 23)

第1級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- 1行の文字数を30字に設定すること。
- プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

第52回 ビジネス文書実務検定試験 (26. 11. 23)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

かるた取りは正月の遊びの定番であり、新年の風物詩になっている。	30
家庭で見かけることは減ったが、勢いよく札を取る競技かるたの風景は、NHKのニュースでも放送されている。若者の中にも、	60
漫画で読んだりインターネットで観戦したりと、興味を持っている人は少なくない。競技で使用される短歌は小倉百人一首と呼ばれ、	90
13世紀の前半に成立し、特に上流階級に親しまれていた。	120
この原型は、藤原定家という貴族が知人の依頼で、新古今和歌集などに収録された中から百首を選出し、色紙に書いたものである。	150
天皇や僧侶、貴族などの歌で、評判の高い作品を中心に選ばれている。それが室町時代の末頃から、学習用教材として利用されるようになった。さらに江戸時代に大量印刷が可能になると、かるたという形で広く普及していった。	178
遊びながら歌を覚えられる百人一首には、様々な修辞が用いられていたことも、人気を博した要因だろう。同じ言葉を重ねたり、古い歌を取り入れたりして、わずか31音に創意工夫することが当時の作風だった。例えば、60番の「まだふみもみず天の橋立」のふみには、踏むと文(ふみ)の二つの意味を込めることによって、歌の描く世界を広げることに成功している。こうした内容と技術との調和こそが、華と称えられた。	208
作品に用いられた修辞や作成時の背景を重ね合わせて、歌を味わうことは、推理小説のような楽しさがある。遠い昔に生きた作者の意図を読み解くことができるのは、この国が数多くの資料を大切に引き継いだからに違いない。特に百人一首は、博物館ではなく生活の中で継承してきた点が素晴らしい。身近な遊びに潜む深い味わいと長い伝統を、後世に伝えていきたいものである。	238
	268
	298
	328
	342
	372
	402
	432
	462
	492
	522
	537
	567
	597
	627
	657
	687
	710